〝姿見〟を中に話し合いました

正木さんからお便り

このたび、高知県中村市日の出町にお住まいの正木信恵さんから、楽しいお便りをいただきました。

正木さんは、常づね本紙をご愛読いただいている方です。感謝の気持をこめながら、その全文を次にご紹介します。

×

そちらはいかがですか。

土佐中村では、桜がほころび始めました。

私たちの職場（はっきりわかりませんが）は、頸肩腕障害の罹患者が十六名もいます。私もその一人ですが、大災害裁判公判の特集は、大変関心をもって読んでいます。

前回の〝姿見〟について、職場の中で話し合いました。どうも私たちの夫婦の中には、あのような人間どうしの暖かさはないのではないかと……。

同じ日社青同の仲間と一緒になり、また〝姿見〟が話題になりました。

「僕は、社青同の女性とは絶対に結婚せんぞ。ゴチャゴチャうるさいけん」、の独身男性の発言には大笑いしました。

守る会会費ですが、昭和五十年十二月より納めておりません。

二千五百円同封します。もし残金がありましたら、カンパにお願いします。

×

なおお便りは、三月二十一日付となっております。

お願い

組合員・家族の皆さん、ご家庭にはきっと全国の働くなかまからいろんな便りが寄せられていることでしょう。それを本紙で紹介しながら、いっそう連帯を強め、たたかってゆきたいですね。

――編集部

姿見

三月十四日、春闘勝利、ロッキード事件抗議市政確立決起集会会場の笹林公園に着いて、まず感じたことは参加者が少いことでした。

とくにロッキード事件にはみんな関心があり、寄るとさわるとその事件に関することを、風呂場でも街角でも耳にします。政治の話には耳を貸さなかったおばさんまでが、ロッキードとピーナツは知っており、いかにこの事件が国民に関心を持たれているかがわかる気がします。

一握りの人たちが甘い汁を吸い、国民をこれほど馬鹿にしきったことが行われている現実に私たちはもっと怒っていいのではないでしょうか。

この物価高の折りに、一日仕事を休めば二千円がフイになる。一日の日給がもらえないのは、たしかにもったいない気がします。

三月十四日の反省

主婦会三川　一主婦会

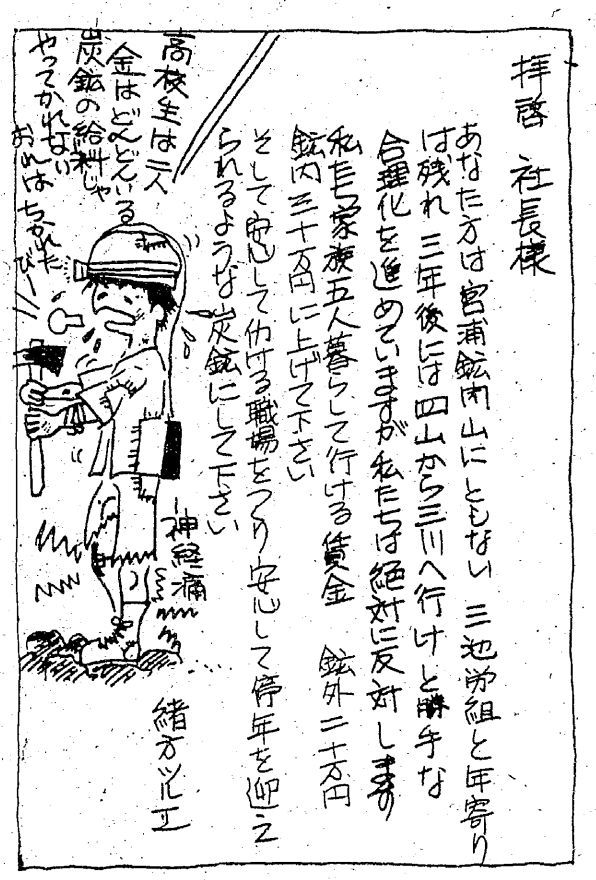
週に一度の休みが、忙しいこともわかっています。洗たく物が山のようにあり、スーパーへの買い物にもゆきたい。でも、その貴重な一日を棒にふってでも集会に参加して、国民一人ひとりの怒りを示すべきではなかったでしょうか。

かく言う私も、実はデモの途中から、私用を果たすために抜け出したのです。

家に帰って主人に言われました――「児玉が、小佐野が、田中角栄がと、ロッキード事件の新聞記事を読んでは腹を立てていたのに、デモ行進くらい最後まで参加して、怒りを示すべきだ」。本当にそうだった、と深く反省しながらこの文を書きました。

怒りの声を――

社長に　総理に　通産相に



政府高官名を明かせ

働く人びとに憲法が保障する生活を

主婦会がハガキで

三池主婦会はこのほど春闘の取り組みの一つとして、有吉新吾三井石炭社長、三木武夫内閣総理大臣、河本敏夫通産大臣の三人に、怒りの抗議と切実な要求をハガキで書き送ろう、と主婦会員に呼びかけました。その結果、ぞくぞく主婦会本部の手もとに集まってきています。五百通前後に達するようですが、ここにそれらの声のなかから幾つかを拾いあげ、紹介いたしました。

皆さん、どしどし抗議と要求をハガキに書いてつきつけようではありませんか。

有吉三井石炭社長へ

――私は、四山鉱の坑内で働く労働者の妻です。次のことを要求します。

①宮浦鉱の閉山絶対反対。②坑内労働者にふさわしい賃金を。③家族が安心して夫をまかせられる坑内保安の確保。④自民党への政治資金をだすな。（労働者の妻）

――私は十三年前の三川鉱炭じん大爆発で、大事な夫の命を奪われた者です。

会社はいまも保守政府とのつながりのもとで、合理化を続けていますね。社長、私は合理化に絶対反対します。

合理化で得をするものは会社、損をする者は労働者。日本の三井さん、今年こそ働く者のため大幅賃上げをたのみます。（一主婦）

――不況・インフレはすべて、大企業優先・国民無視の自民党政治の結果で、働く者には何の責任もない。それなのに不況を利用して労働者をこれまで以上、低賃金生活に追いこむ。それに、近い内に医療費も上がる様子。貧乏人が病気すれば、医者にもかからず死ねというんですか。

力一ぱい働いている労働者に、人として生活できる賃金ぐらいだして下さい。（怒りの主婦）

×

三木総理大臣へ

――ロッキード事件は、政府・高官の汚職に関する疑惑を徹底的に究明して下さい。また政府・自民党は財界とのゆ着を断ち切り、国民のための、国民が安心して働ける政治の実現を強く要求します。（N・E）

――石油危機を期にはじまった公共料金・物価の値上がりは、国民生活をおびやかしている。政府はもっと雇用安定、大幅賃上げ、年金制度の改善など、国民生活の安定のための政策を確立せよ。（主婦K）

――現在の国会の状態は、自民党は、黒い霧の徹底追及を要求する国民の声を無視し、野党に責任転嫁しているが、相つぐ物価の追い打ち値上げで国民を苦しめる政治を早く止めて下さい。

億単位の、気の遠くなるような金をフトコロに入れた政府高官の名前を、国民の前に公表して下さい。美言より、国民ののぞむ政治を。総理の英断を要求します。（三池主婦）

×

河本通産大臣へ

――私たちはインフレ・不況の中で、一生懸命生きています。食品・衣類など、物価は高くなるばかり。それに低賃金ときては、私たちはどれいとかわりません。もう少し、働く人びとの苦労がわかってもらいたいものです。（E・Y）

――「人間は何人たりとも、健康で文化的な生活を営む権利を有す」と憲法にありますが、数多くの国民、とくに炭鉱労働者は危険な職場で、低賃金で働き、日常健康を害し、生命の危険に不安な日々を送っています。

昨今のインフレ・高物価で、その生活さえ破たん寸前です。少しでも物価の上昇をおさえ、国民の生活向上を計り、安心して働け、文化的な生活がおくれるよう格段の努力を切望します。（一主婦）

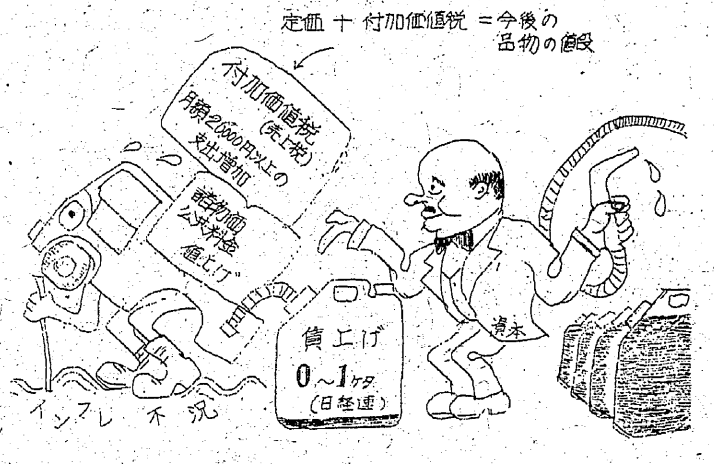
×

以下は割愛しました。なお抗議のハガキを、次のところへとしどし書き送りましょう。

▼有吉新吾・三井石炭社長（東京都中央区日本橋室町二丁目一の一）

▼三木武夫・内閣総理大臣（東京都千代田区永田町二の三、総理官邸）

▼河本敏夫・通産大臣（東京都千代田区霞ケ関一の三の一、通産省）



ある職場新聞に見た傑作

荒尾四小協の活動

荒尾四小校区協議会だよりから

×

自民党がつくりだしたインフレと不況のため、中小企業の倒産はつづき、働く人びとには首切りや合理化が進められています。

さらに郵便料金や酒・タバコの値上げにつづき、再び国鉄料金や電報電話などすべての公共料金が上げられようとしています。

春闘共闘委員会では、公共料金の値上げに反対し、働く人びとを中心とする全市民の生活を豊かにするために、近く署名運動のお願いに、皆様のご家庭を訪問しますので、ふるってご協力下さい。

実は、右の署名はすでにほとんど終り、組合本部の手もとに集まっているが、同協議会のこの組織的行動は注目すべきである。

★四月の暦

一日　新学年スタート。
七日　世界保健デー。
八日　灌仏。花まつり。（釈迦は、この日に誕生）
一〇日　婦人週間。
一一日　メートル法公布記念日。
一三日　十三詣り。
一五日　高山の山王祭。
一八日　発明の日。復活祭。
二〇日　逓信記念日。（郵便週間）
二二日　サンフランシスコ講和記念日。
二九日　天皇誕生日。

×

待ちに待った桜も上旬満開。いよいよおとずれる春。

▼だが、日本列島をすっぽりと包みながら渦まく、ロッキード疑獄事件の黒い霧のなか、ようやく七六春闘が決戦段階へ。思いきり労働者のエネルギーを爆発させてたたかおう。（なお、写真は街頭に咲いていた水仙）